

「熱帯病治療薬研究班（略称）」の過去および今後の3年間

木村 幹男¹ 中村 哲也² 大友 弘士³ 名和 行文⁴国立感染症研究所 感染症情報センター¹ 東京大学医科学研究所 感染免疫内科²
東京慈恵会 熱帯医学研究部³ 宮崎大学 副学長室⁴

「熱帯病治療薬研究班（略称）」は1980年に厚生省研究事業「輸入熱帯病の薬物治療法に関する研究」班として発足し、国内未承認薬による熱帯病・寄生虫症の治療に多大な貢献をしてきた。平成13～15年度は厚生科学研究費補助金・創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業「熱帯病に対するオーファンドラッグ開発研究」班〔主任研究者：大友弘士（平成13～14年度）、名和行文（平成15年度）〕として活動し、マラリア治療薬メフロキン、糞線虫症治療薬イベルメクチンの認可に貢献した。平成16年度からは班員構成や保管機関の若干の見直しをして「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬の輸入・保管・治療体制の開発研究」班（主任研究者：名和行文）として、事業を継続することになった。

平成13～15年度にはホームページを立ち上げ、未承認薬を必要とする医療機関が容易にアクセスできるように図った。また、薬剤保管者のメーリングリストを立ち上げ、薬剤の効率的な使用を図るとともに、診断や治療の相談も引き受けて来た。薬剤使用法、新規薬剤の導入などについて、ヨーロッパの専門機関と意見交換を行い、ヨーロッパの旅行者疾患のネットワークである TropNetEurop との交流により、アフリカトリパノソーマ症（睡眠病）の薬剤3種類の導入を実現した。過去3年間の治療実績としては、症例数の多い順に、疥癬、マラリア、赤痢アメーバ症、糞線虫症などが挙げられる。また、使用頻度が多かった薬剤としては、イベルメクチンが最多で、フロ酸ジロキサニド、プリマキン、クロロキン、トリクラベンダゾールの順に続いた。メトロニダゾール注射液は、重症赤痢アメーバ症で経口服用できない症例に用い、明らかな効果がみられている。

平成16年からの新研究班では、クリプトスポリジウム症に使用可能なニタゾキサニドを導入し、HIV感染症などの免疫不全患者における同疾患を対象とした研究を開始する。症例の相談については、マラリア原虫の顕微鏡写真、種々のCTやMRI画像などを添付してメーリングリストを利用した“Telemedicine”的な方法を推進して行く予定である。

"Research Group on Chemotherapy of Tropical Diseases (abbr.)" during the past and the coming three years

MIKIO KIMURA

Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases,
Tokyo, Japan